

何の仲間？

空飛ぶムササビは鳥の仲間でしょうか？
それともコウモリの仲間でしょうか？
いいえムササビは哺乳類でリスの仲間です。



どうやって 飛ぶの？



飛ぶといっても鳥のようにはばたくのではなく、高いところから低いところへグライダーのように滑空します。

大きさは？

大きさはネコくらい。体重は約1kgくらいです。頭の先から尾の付け根までが約40cmで、尾の長さも約40cm。飛んでいる姿は「空飛ぶ座布団」といわれています。

ムササビの すむ森

ムササビのすむ森はどんな森でしたか？
見上げるほどの高い木。かかえきれないほどの大きな木。種子や花をつけるさまざまな木。冬でも葉を落とさない木。樹洞のある木…いろんな種類の木があったことでしょう。

そんな夜の森を滑空するムササビはどんな様子でしょう。想像してみてください。大きな木から木へと滑空するムササビにとって、樹齢の高い大きな木がたくさん残っている森は、移動しやすく居心地の良いすまかに違いありません。

今回みなさんは、ムササビのすむ森を楽しんでいただけましたか？ 野生動物がすみ続けられる豊かな森が身近にあることは、それだけでもすばらしいことです。そんな豊かな森をこれからも残していきたいものです。

独立行政法人 森林総合研究所 多摩森林科学園

〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81
TEL 042-661-0200(森の科学館) FAX 042-661-5241
ホームページ <http://www.ffpri-tmk.affrc.go.jp/>

文・写真：繁田真由美 写真協力：保母桂志 デザイン・イラスト：野口郊美

リサイクル適正の表示：紙へリサイクル可 初版 2刷

科学園の森には
ムササビが
すんでいます



科学園の森を歩くとあちらこちらで
ムササビの気配を感じることができます。
いつもの散さく路を少しちがった目で見
て野生動物のすむ「森」を体感してみましょ

ムササビ どんな動物？

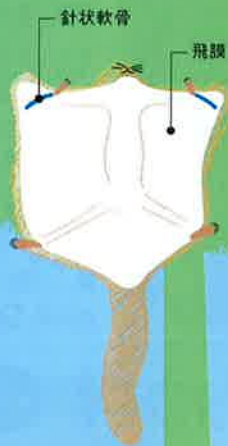
どのくらい飛べるの？

滑空距離は飛び出す木の高さのおおよそ3倍といわれ、ふつう20~30mほどです。科学園ではときどき道路を飛びこえて多摩御陵と行き来するムササビが見られます。

どうして飛べるの？

ムササビは飛ぶために、飛膜(ひまく)という膜を持っています。飛膜は皮膚のたるみが発達したものです。

飛膜は前足と後ろ足の間にあり、首から前足にかけてと後ろ足と尾の間にもあります。これをマントのように広げて滑空します。前足の指には針状軟骨(しんじょうなんこつ)が伸びていて、飛膜の面積をさらに広げることができます。



いつ起きるの？

日がとつぷりと暮れた頃、ムササビの「グルルルル」という鳴き声が森にひびきわたります。ムササビの一日のはじまりです。ムササビは日が暮れてから活動する夜行性の動物なのです。ねぐらから抜け出したムササビは、食べものをさがして森の中へ飛んでいきます。

どこで寝るの？

明け方、明るくなる前に、ねぐらとなる樹洞(じゅどう)にもどってきます。昼間はねぐらで寝ています。樹洞のほかに巣箱や建物の屋根裏、戸袋などもねぐらとして利用します。

何を食べているの？

ムササビは木の上にある葉や種子、花、冬芽や樹皮など、さまざまな植物の部位を季節に応じて食べています。科学園で観察されたムササビの食べものを見ましょう。

| 樹種 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|--------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|-----|---|
| サクラ類 | ✿ | ● | ● | | | | | | | | ✿✿✿ | |
| イタヤカエデ | ■ | | ■ | | | | | | | | | |
| オニイタヤ | ✿ | | | | | | | | | | | |
| クスギ | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | |
| エノキ | | ■ | ■ | | | | | | | | | |
| カジカエデ | | ■ | ■ | | | ■ | | | | | | |
| オオモミジ | | ✿ | | | | ● | ● | ● | ● | | | |
| イロハモミジ | | | | | | | ● | | | | ✿ | ✿ |
| ブナ | | | ● | ● | | | | | | | | |
| コナラ | | | | | | | ● | ● | | | | |
| スダジイ | | | | | | | ● | ● | | | ■ | ■ |
| アラカシ | | | | | | | ● | ● | ● | ● | | |
| シラカシ | | ✿ | | | | | ● | ● | ● | ● | | |
| ツクバネガシ | ■ | | | | | | ● | ● | ● | ● | ✿ | ✿ |
| カヤ | | | | | | | ● | ● | ● | | | |
| カキノキ | | | | | | | ● | ● | ● | | | |

● 種子 ■ 葉 ✿ 花 ✿ 冬芽 ● 果実

● ねぐら~樹洞~

樹洞は大切なねぐら

昼間のねぐらとなる樹洞は、ムササビが入れるくらいの入り口径(8cm以上)と奥行きが必要です。散々路を歩きながらそのような樹洞をさがしましょう。樹洞が見つかったら、

- 入り口の大きさがちょうどいいか。
 - 奥行きがありそうか。
 - 入り口がテカテカしていたり、周囲の樹皮が毛羽立っていたりしているか。
 - 中から巣材が見えているか。
- など、利用の手がかりがないかじっくりと観察します。



■ ねぐら~巣箱~

巣箱もよく利用します

巣箱があったら、

- 入り口がけずられているか。
- 中から巣材が見えているか。

利用の手がかりを観察します。時には、ムササビの体の一部が見えることがあります。



🦊 樹皮はぎ

巣材となる樹皮

ねぐらの中には巣材が運びこまれます。巣材はスギやメタセコイアなどの樹皮を細かくさいたものが利用されます。



樹皮を運びこむムササビ

樹皮はぎ

さあ、ムササビスポットをさがしてみよう!

この看板のついている木がムササビスポット!



● フン

フンは空から降ってくる

日没後、ねぐらからでたムササビは木の上でフンをします。バラバラと落ちてくるフンは地面の上でちらばります。ムササビは大きな木をよく利用するので、大きな木の根元でフンをさがしてみましょう。フンの形はまるく正露丸のようで、直径約3~8mmほどです。表面も中も繊維状で、手で簡単につぶせます。季節の食べものでフンの色も違い、普通見られるのは茶褐色ですが、黒褐色から黄褐色までさまざまです。



地面上のフン。ちょっと見つけにくい。



フンの表面と断面(原寸大)

食痕も空から落ちてくる

ムササビは木の上の葉や種子などを枝から切りはなし、前足で持って食べることがよくあります。その際、全部食わずに食べ残しを地面に落とします。丸い穴の開いた葉っぱや、V字に切れた葉っぱは、ムササビならではの食痕といえます。いったいどうやって食べているのでしょうか。丸い穴の開いた葉っぱの場合、木の上で前足を使って葉っぱを二つ折りや四つ折りにして、その真ん中だけを食べ、あとは落としてしまいます。サクラ類の冬芽のように冬芽の付け根だけを選んで食べる場合もあります。食痕からムササビの木の上での食べ方を想像するのも楽しいものです。

V字に切れた葉っぱの食痕(ツクバネガシ) 丸い穴の開いた葉っぱの食痕(クヌギ)



オオモミジ種子の食痕 カキノキ果実の食痕 サクラ類の冬芽の食痕